

法説辻

岩手県曹洞宗布教師会三分間法話

しあわせ

一関市・東山町・観林寺住職

高橋 哲秋

「しあわせ」についてお話を致します。

あなたにとっての「しあわせ」とは、どんな状態でしょうか。欲しい物が手に入った時でしょうか。好きな人と一緒にいることでしょうか。家族が仲良くしていることでしょうか。それとも健康でいられることでしょうか。

私たちは自分の願いや欲望が満足された時に、幸せとか幸福だと言います。しかし、それは自分にとっただけの幸せであり、ひよつとすると自分の幸せの陰には、不幸になっている人がいるかもしれません。「しあわせ」とは「幸い」という漢字を使います。と

ころが、ちよつと昔までは「仕え合う」と書いて「仕合わせ」と読みました。

お互いが相手や廻りのために仕え合うことを「仕合わせ」と言うのです。

自分の欲しい物を手に入れることではなく、信頼している人に喜んでもらえることが「仕合わせ」だというのです。

仏教に「後楽」という言葉があります。今は「東京ドーム」となっていますが、あの「後樂園」の後楽です。後楽とは本来、旦那様が家族などに施しをして、家族が喜ぶ姿を見て、最高の喜びを感じることを言います。勿論、家族も主人を信頼し、主人に仕えることで仕

合わせを感じます。

この後楽を味わうことこそ、本当の「仕合わせ」ではないでしょうか。

自分勝手な幸福を求めるのではなく、廻りに何かをしてあげることによって得られる心の満足感を味わってみたいものです。



曹洞宗岩手県宗務所

テレホン法話

☎ 0120-62-1602

ほとけに
出会う

心に残る

法話を

お聞き

下さい